

系統豚「しもふりレッド」及びその交雑種に対する飼料米給与技術

畜産試験場

1 取り上げた理由

宮城県の飼料米の作付面積は年々増加しており、今後も増加傾向は続くものと思われる。飼料米のさらなる利用推進のため、県内に普及している系統豚「しもふりレッド」及びその交雑種に対する飼料米給与法を検討したので、参考資料とする。

2 参考資料

1) 給与方法

しもふりレッド純粋種(D種)およびLDD種(二元交雑種LD種×D種)の2品種に対し、肥育前期(体重30kg~70kg)には、市販配合飼料前期に原物重量比で飼料用玄米(食用品種)15%及び大豆3%を混合して給与する。肥育後期(体重70kg~115kg)には、市販配合飼料後期に原物重量比で飼料用玄米15%を混合して給与する。

2) 産肉性について

両品種とも、市販配合飼料前期および後期のみを給与した対照区に比べ、一日平均増体量が高い値となり、出荷日齢が早くなる。また、飼料要求率が低くなる傾向にある(表1)。特に、LDD種において、背脂肪厚は厚くなる傾向にある(表2)。

3) 肉質について

- a 両品種ともTenderness(やわらかさ)の値は低く、やわらかくなる傾向にある(表3)。
- b 筋肉内脂肪含量では、D種で高くなる傾向にある(表3)。
- c ドリップロスではD種において、クッキングロスでは両品種とも低下する傾向にあり、保水性が改善される(表3)。

4) 食味評価について

- a LDD種では、ほとんどの項目でそれぞれの傾向が強い評価となり、おいしさ(総合評価)が有意に高い評価となる($p<0.05$)(図1)。
- b D種では、肉の色が淡い、肉がやわらかい評価となり、おいしさ(総合評価)が高い評価になりやすい(図2)。

3 利活用の留意点

- 1) 玄米は、未処理のままでは消化性が劣るので、2mm以下に粉砕する。
- 2) 大豆は、生のまま給与すると豚にとって有害となるので、加熱処理したものをを用いる。
- 3) LDD種では、発育は良好だが厚脂傾向になる。

(問い合わせ先：畜産試験場種豚家きん部 電話0229-72-3101)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

系統豚を利用した新たな豚肉生産方式の確立（平成23年度）

2) 参考データ

表1 発育成績

	LDD種				D種			
	試験区		対照区		試験区		対照区	
一日平均増体量 (g/日)	978.0	± 149.8	879.1	± 34.8	975.6	± 51.4	958.3	± 91.2
総飼料摂取量 (kg)	257.6	± 22.5	274.2	± 25.7	261.4	± 16.8	276.5	± 11.8
飼料要求率	3.14	± 0.29	3.33	± 0.30	3.12	± 0.14	3.36	± 0.11
出荷日齢 (日)	154.8	± 3.7	159.2	± 6.9	153.8	± 12.6	160.5	± 5.7

* 平均値±標準偏差

表2 枝肉成績

	LDD種				D種			
	試験区		対照区		試験区		対照区	
背脂肪厚 (cm)	31.77	± 7.32	26.92	± 3.15	32.05	± 5.94	30.85	± 4.54
ロース断面積 (cm ²) ※	17.81	± 3.25	17.79	± 2.43	22.20	± 2.52	20.14	± 3.32

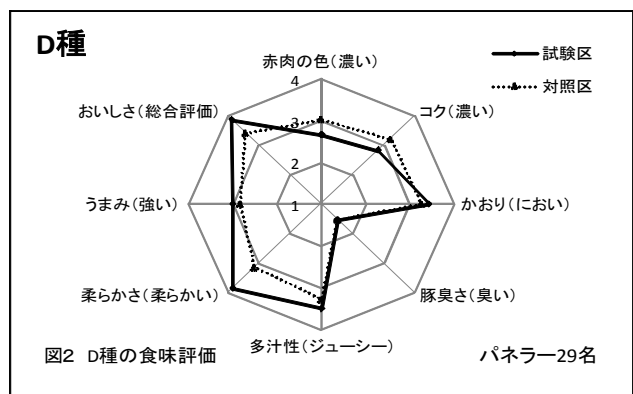
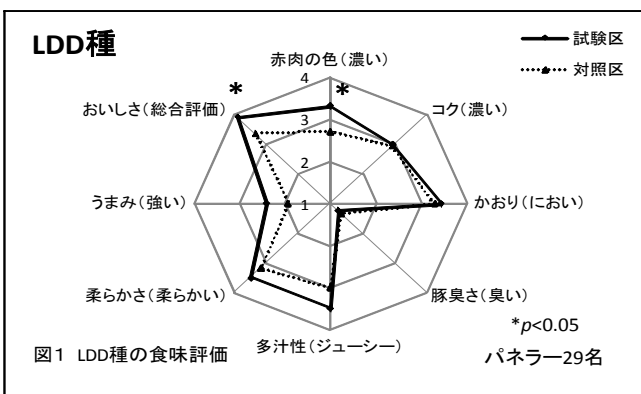
※ロース断面積は4-5胸椎部

* 平均値±標準偏差

表3 肉質成績

	LDD種				D種			
	試験区		対照区		試験区		対照区	
Tenderness (kgw/cm ²)	43.38	± 7.10	47.44	± 10.42	49.12	± 6.08	52.59	± 7.79
筋肉内脂肪含量 (%)	5.18	± 1.81	5.23	± 1.65	6.00	± 1.62	4.71	± 1.58
ドロップロス 24hr (%)	1.52	± 0.89	1.23	± 0.86	1.11	± 0.38	1.35	± 1.14
48hr (%)	3.28	± 1.23	2.91	± 1.69	2.00	± 0.71	2.37	± 1.27
クッキングロス (n=5) (%)	16.04	± 2.16	17.61	± 3.22	16.29	± 1.48	17.76	± 3.78

* 平均値±標準偏差



3) 発表論文等

なし

4) 共同研究機関

なし